

事務局によるこども・若者からのヒアリング概要

No.	ヒアリング対象者	実施日	ページ
①	フリースクールやプレイパークに通っている小学生・中学生19名	2021年10月29日	P2
②	社会課題に取り組んでいる高校生・大学生10名	2021年10月27日	P4
③	児童の権利条約の普及に取り組んでいる小学生・中学生・高校生16名	2021年11月2日	P7
④	児童相談所一時保護所の小学生・中学生6名、児童養護施設の中学生・高校生3名	2021年11月6日、7日	P9
⑤	社会的養護の経験がある大学生3名	2021年10月13日、20日	P13

こども・若者からのヒアリング ①

ヒアリング対象者：フリースクールやプレイパークに通っている小学生・中学生19名
ヒアリング実施日：2021年10月29日

Q1. 困っていること、悩んでいることはありますか？

【学校における悩み】

- ・仲の良い友達ができない。友達が自分の悪口を言っているように感じる。
- ・学校が楽しいと思えない。学校に行けていない。
- ・苦手な教科がある。授業が分かりづらい。勉強についていけない。
- ・制服や髪型の指定などの学校のルールが多く、厳しい。
- ・合唱コンクールや体育祭など学校行事に強制的に参加させられるのが嫌だ。
- ・学校の中で学年間の上下関係があり、嫌だ。
- ・給食がおいしくない。給食を選択できない。
- ・クラスの人数が少ない。
- ・クラスの人数が多い。席を自由に選べない、席替えが面倒。
- ・クラスで問題が起きると連帯責任にされる。

【コロナによる悩み】

- ・楽しみにしていた地域のイベントなどが減り残念。
- ・公共の場でマスクをしている人が減ってきていることが不安。
- ・ワクチンを打っていない人に対する差別がある。

【こどもへの情報不足】

- ・大人には伝わっている情報が、こどもには伝わっていないことが多い。
- ・選挙についてこどもに何も情報が伝わっていない中、選挙カーがうるさいと感じる。

【こどもの意見を聞いてくれない】

- ・宿題をやらなかったときに、できなかった理由聞いてくれなかった。
- ・勉強をきちんとやっているのに、やっていないと言われることが嫌だ。

【金銭的な心配】

- ・学校以外で学びたいと思うとお金がかかる。教育にかかるお金が心配。

Q2.困っていること、悩んでいることに対し、政府や自治体にやってほしいことはありますか？

【教育環境の改善など】

- ・自分の学区以外の学校に行けるようにしてほしい。
- ・先生を選べるようにしてほしい。
- ・学校のルールを少なくしてほしい。また、ルールをこども自身で考えて決められるようにしてほしい。
- ・勉強が分からない子もいる。数学の教員補助員のような先生を他の教科でも取り入れて、先生の数を増やしてほしい。
- ・勉強の遅れを感じない学校にしてほしい。
- ・希望する授業を選択できるようにしてほしい。
- ・楽しいと思える学校にしてほしい。
- ・授業の中でこどもがやりたいことを取り入れてほしい。
- ・将来の夢に繋がる勉強を学校でできるようにしてほしい。
- ・いろんな年齢の人と勉強できる学校にほしい。

【コロナ対策など】

- ・政府の実施している感染症対策などこどもに情報がきちんと伝えられていない。こどもにも情報が分かりやすく伝わるようにしてほしい。
- ・コロナの感染症対策をもっとしっかりしてほしい。

【選挙について】

- ・早く選挙に参加できるようにしてほしい。

Q3.どういった仕組みがあったら政府や自治体に意見を言いやすいと思いますか？

【行政をより身近な存在に】

- ・行政の担当者の顔が見えるようにしてほしい。
- ・行政の担当者が学校を訪問してこどもの意見を聞いてほしい。
- ・SNSで動画を配信するなどして、行政を身近に感じられるようにすれば、意見を言いやすいのではないか。

【意見を聴く仕組みなど】

- ・リモートなどで政治家と話しができる機会があったらうれしい。
- ・こどもが気軽に意見を提出できる意見箱を設置してほしい。
- ・こどもの中で選挙をして意見を言う代表を決めたら良いのでは。
- ・地域のイベントなどで意見を言える機会を増やしてほしい。
- ・学校でアンケートをとって、こどもの意見を集約してほしい。
- ・自分が言った意見が実際に実現されるところを見たい。

こども・若者からのヒアリング ②

ヒアリング対象者：社会課題に取り組んでいる高校生・大学生10名

ヒアリング実施日：2021年10月27日

Q1. 困っていること、悩んでいることはありますか？

【性やジェンダーに関すること】

- ・性的指向や性自認等に関して周りの理解を得るのが難しかったり、自分の意志に反した形で暴露されてしまうことがある。
- ・妊娠した子が学び続けることができる環境がなく、選択を迫られることが多い。
- ・美容広告など女性の容姿に関する広告を見るとプレッシャーを感じる。

【インターネット上の情報等に関すること】

- ・インターネット上の誤った情報を鵜呑みにして行動してしまったことがある。
- ・インターネットには多くの情報であふれかえっており、信頼できる正しい情報を見つけ出すことが難しい。

【コロナ禍での悩み】

- ・コロナ禍で活動を行ったり、直接人と話したり、相談する機会が失われている。
- ・コロナ禍で塾が閉鎖されたり、模試が受けられなかったり、思うように勉強ができない。
- ・コロナの影響でオープンキャンパスに行けず、進路を選択することが難しい。
- ・オンライン授業の増加や外出の自粛などによる体力不足。
- ・妊娠・出産などライフプランの変更を迫られた。

【経済的な悩み】

- ・家庭の経済状況により進学先の選択肢が狭まってしまった。
- ・経済的な理由から、留学ができなかった。やりたいことを諦めた。

【相談する人や場所に関すること】

- ・災害により、ライフステージが大きく変わってしまった。同じ経験をした先輩が周りにおらず、将来像を描くことが困難。また、カウンセリングが行き届いておらず、気軽に相談できる場所がなかった。
- ・性に関して話すことは恥ずかしいと感じる。相談に行くのも勇気が必要で、気軽に行けない。

Q2.困っていること、悩んでいることに対し、政府や自治体にやってほしいことはありますか？

【教育環境の改善など】

- ・教育（ジェンダー教育、性教育、メディアリテラシー教育、キャリア教育、シティズンシップ教育など）の充実。
- ・妊娠しても学び続けられる環境を整備してほしい。
- ・いじめや不登校への対応（いじめた側への対応、不登校の子だけが通える学校の整備など）。
- ・家庭の経済状況によって進学や留学など将来の選択肢が狭まらないようにしてほしい。

【相談できる環境づくりや情報へのアクセスなど】

- ・親や学校以外の第3者や行政に気軽に相談できる仕組み・環境をつくってほしい。
- ・相談できる場所や制度などをこども・若者にきちんと周知してほしい。
- ・必要なときに必要な情報、正しい情報にアクセスできるようにしてほしい。
- ・ネット上の性や女性の容姿に関する広告・情報について規制をするなど、より快適なネット環境をつくってほしい。

Q3.どういった仕組みがあったら政府や自治体に意見を言いやすいと思いますか？

【幅広い層からの意見聴取】

- ・年齢や住んでいる地域が異なるこども・若者、様々な経験の当事者など幅広いこども・若者から意見を聞いてほしい。
- ・色んな考えが必要だと思うので、意見を聞く代表者は無作為で選ぶ。

【SNSや学校などを通じた意見聴取】

- ・待っているだけでなく、政府の方から意見を取りに来てほしい（学校訪問、SNSなどを通して）。
- ・大学などの機関を通して学生の声を聴取・集約してはどうか。
- ・全国にこども・若者会議を置き、市民社会やこども・若者の代表（個人・団体）が意見の取りまとめをしてはどうか。
- ・SNSは多くの高校生・大学生にとって身近なもの。公式LINEを活用した意見募集やネット投票など、SNSを利用して意見を言える場があれば、より気軽に行政に意見を言えるようになるのではないか。
- ・こども・若者の中にはトラウマを抱えている子もいる。安心できる人や環境で時間をかけて丁寧に意見を聴取していくことが大切ではないか。

【行政へのアクセスのハードルを下げる】

- ・身近な行政というと地方自治体。まずは地方自治体で中高生が興味を持てるようなセミナーや講座を行い、地方自治体レベルの行政を身近に感じることができれば、国レベルの行政も身近に感じられるようになり、意見を言いやすくなるのではないか。
- ・こども・若者の意見が実際に反映された事例や反映される過程を「見える化」してほしい。
- ・こども・若者の価値観や考え方が多様化している中、行政にもより柔軟な考えを持ってほしい。
- ・行政は固いというイメージがある。行政が何をやっているのかYoutubeなどを通して身近に感じられるようにしてほしい。

参加者からの感想

- ・今まで遠くに感じていた、国の行政に関わる方々とお話できたことで、行政を身近に感じることができるようになりました。また、こども政策推進体制検討チームの皆さんが頷きながら話を聞いてくださったので、話すことの意味を感じられましたし、同世代の方が様々な活動をしていることを知ることが出来、私にとっても学びとなりました。行政に関わる方々が、私たちの世代からの意見をまとめて形にすることが大事であると考えていらっしゃることが大変伝わり、とても嬉しかったです。
- ・行政と聞くと自分からは遠い存在であると感じていました。しかし、私たちの活動や意見に対しても暖かい雰囲気でも聞いてくださりとても嬉しかったです。そしてこのようにお話をさせていただく機会があり、私たちの意見が届くのだと今までよりも少し近い存在になりました。
- ・（意見が）ジェンダーや性に偏っていたかもしれませんが、その偏りこそが「意識高い系」の関心だということで伝えられてとてもよかったと思います。
- ・活動を通して見えた課題を政策を考える方に直接伝えることができ、自分たちの声を届けることが出来たと実感することができました。私は今回の交流で行政を身近に感じる事ができました。なので、高校生年代に行政に関して関心を持ってもらうためにこのような交流をしてくださったなら嬉しいなと思います。
- ・行政と聞くと自分からは遠い存在であると感じていました。しかし、私たちの活動や意見に対しても暖かい雰囲気でも聞いてくださりとても嬉しかったです。そしてこのようにお話をさせていただく機会があり、私たちの意見が届くのだと今までよりも少し近い存在になりました。
- ・少しでも、こども政策推進体制検討チームの方々に、女子大学生年代が感じるジェンダー問題について知っていただき、なんらかの形で私の意見が反映されたら幸いです。政府の方の話しかたとか服装がスーツで固かったかなと思ったので、オフィスカジュアルくらいでも良かったのではないかなと思いました。
- ・中央の人がこども・若者の声を聞いて政策をつくらうとしていることが知れて良かったです。こども庁は既に困難な状況にあるこどものために何かすると思っていましたが、私たちも少しは対象になったらいいなと思いました。またこのような機会があると嬉しいです。官僚の方の表情がかたくて少し怖かったです。私たちと官僚との距離感を改めて感じました。もっと意見を言いやすい雰囲気づくりを心掛けた方がいいと思います。

こども・若者からのヒアリング ③

ヒアリング対象者：児童の権利条約の普及に取り組んでいる小学生・中学生・高校生16名
ヒアリング実施日：2021年11月2日

Q1. 困っていること、悩んでいることはありますか？

【多様性への理解不足】

- ・外国にルーツを持つ友達が変わったあだ名で呼ばれてしまっている。
- ・勉強や友達との関わりが難しくなり、特別支援学級に通っているが、本当はクラスみんなに自分ことを理解してもらい、普通学級のみんなと一緒に勉強をしたり遊んだりしたい。
- ・フリースクールに通っているが、周りからそんなところに通っているのと言われた。

【経済的な悩み】

- ・家庭の経済状況により塾やフリースクールに行きたいのに行けない。
- ・フリースクールは学費を払う必要があり、家の経済状況が心配。将来も不安。
- ・友人が高校に通うためにバイトをしており、十分に勉強ができない状況にある。

【居場所や相談できる環境の不足】

- ・こどもが遊べる公園の数が減っており、ボール遊びや走ったりできない公園がある。
- ・公園は小さい子ばかりで遊びにくい。
- ・学校にスクールカウンセラーがいなかったり、1週間のうち数時間しかいなかったりする。
- ・スクールカウンセラーに助けを求めたいと思っても、どういった流れで相談できるのか分からない。
- ・カウンセラーや先生に相談した内容を、自分の意志に反して親や担任の先生など第3者に漏らされてしまった。

【こども・若者の意見を聞いてくれない】

- ・先生の態度が男の子と女の子で違う。また、良くない言葉遣いをすることがある。先生にやめてほしいと言ってもこどもだからという理由でこどもの意見を聞いてくれない。
- ・こどものことを大人が決めてしまっている。例えば、オルタナティブスクールに通う選択肢があるのに、こどもには選択肢があることを知らされていない。
- ・児童の権利条約について、学校では教えてくれず、知らない子が多い。
- ・こどもの意見を聞いてくれる仕組みがあっても、多くの子はそのことを知らされていない。

Q2.困っていること、悩んでいることに対し、政府や自治体にやってほしいことはありますか？

【教育環境の改善など】

- ・教育（障害・性別・発達障害等の多様性、児童の権利条約など）の充実。
- ・何がいじめ・虐待にあたり、誰に助けを求めたら良いのか学校教育の中で教えてほしい。
- ・オルタナティブスクールを学校として認めてほしい。
- ・学校以外の場所でこどもの権利について教えてくれる場所を設置してほしい。

【居場所や相談できる環境の整備】

- ・いつでも安心してスクールカウンセラーに相談できるよう、カウンセラーを増やしたり、個人情報の扱いを定めたガイドラインを作成してほしい。
- ・公園や公民館などこどもが遊ぶことができる公共施設の整備。学校の校庭の開放。

【経済的な支援】

- ・どんな境遇でも学び続けることができるよう支援してほしい。
- ・家庭の経済状況により進学や将来の選択肢が狭まらないようにしてほしい。

【こどもの意見の尊重】

- ・こどもについての法律や制度を議論する場にこども自身も入れてほしい。大人だけでこどもが抱えている問題を網羅することは難しいと思う。
- ・こどもの意見を取り入れているとしても、多くのこどもは意見を聞いてもらえる機会があることを知らない

【法整備など】

- ・こどもの権利をどんな場面でも大切にすることを約束する「こども基本法」をつくってほしい。
- ・こどもの権利が守られているか確認・監視する機関をつくってほしい。
- ・こどもに関わる取組みを、全体的にみて進める役割をはたす国の機関をつくってほしい。

Q3.こういった仕組みがあったら政府や自治体に意見を言いやすいと思いますか？

【SNSや学校などを通じた意見聴取】

- ・学校やフリースクールを通じて、こどもが意見を出せるようにしてはどうか。
- ・学校から配布されているタブレットに自身の悩みを相談できるアプリを入れてはどうか。
- ・全てのこどもがいる家庭に用紙を配り、こどもとその親に意見を書いてもらう。また、URLを添付し、ネットから意見を提出してもらえるようにしてはどうか。
- ・SNSは匿名での投稿が可能。こども・若者がSNSに気軽に意見投稿をできるようにし、政府の代表者がその投稿に回答するようなシステムをつくってはどうか。
- ・SNSを利用してライブのQ&Aを行って、こども・若者の提案や意見にその場で回答できるようにしたらどうか。

【情報やプロセス・成果の見える化】

- ・こども・若者から集めた意見を実現するために行った活動や成果もSNSを利用して投稿してほしい。
- ・こども・若者が意見を言う方法を全国のこども・若者や大人に知らせることが重要。
- ・政治の報道について、こども向けに要約したり、イラストをつけたりするなどの工夫が必要。

こども・若者からのヒアリング ④

ヒアリング対象者：児童相談所一時保護所の小学生・中学生6名、児童養護施設の中学生・高校生3名
ヒアリング実施日：2021年11月6日、7日

※こどもが意見を言いやすい環境を整えるため、それぞれ2回に分けて実施。1回目のヒアリングでのこどもの意見は別添として掲載。

Q1. 困っていること、悩んでいることはありますか？

【一時保護所や施設における生活での不便さやストレス】

<一時保護所>

- ・友達、交際相手、ペットに自由に会えない。自由に連絡を取れない。
- ・好きなタイミングで自由に外に行けずストレス。
- ・ネット環境がなく、不自由。好きな動画を見たり、勉強のことや将来のことを調べたりしたい。
- ・ゲームをする時間や回数に制限がある。自由に遊びたい。
- ・私物のゲーム機やスマホなどを自由に持ち込んだり、使ったりできない。
- ・自由に髪を染めたり、髪を切ったり、ピアスをあけたり、好きなファッションができない。自信を持つために大切。
- ・コロナ禍で一時保護所に入所してすぐは静養室にいたが、漫画や本など時間をつぶせるものがなく退屈だった。
- ・学習することにトラウマがあり、職員に「学校が辛い」と言うと、「将来のためにならないよ」と言われる。

<児童養護施設>

- ・中学生はスマホの契約をしていないので、外出時に友達と連絡がとれず不便。夜はスマホを回収され自由に使えない。
- ・施設は「家庭的な雰囲気」を目指していると言っているが、時間で食堂を閉めたり、雨でも迎えに来てくれなかったり、自分の部屋にきょうだいや寮のほかのこどもを入れてはいけなかったりと、全然家庭に近づいていない。こどもを呼び捨てにすることは威圧感を与えると外部から指摘され、呼び方が「さん」付けになったが、逆に一線を置かれている気がする。
- ・今のお小遣いでは、友達との人間関係に必要な金額に足りない。少ないお小遣いの中で文房具や飲み物など、普通の家庭だったら親に買ってもらえるようなものを自分で買わないといけない。そのくせ、使い方を注意されたりする。
- ・建物の中で声や音が響きやすく、小さい子が先生の名前を呼んだりする声などが電話の相手に聞こえてしまう。施設にいたことがばれたくない子にとっては迷惑。
- ・門限が決められていたり外泊できないことで、友達に気を使わせてしまったり、自分だけ先に帰ることが申し訳ない。
- ・職員がこどもに冷たい気がする。忙しいと対応してくれなかったり、こどもによって対応が違う場合もある。定時になると帰ってしまいお風呂に入れなかったりする。中学生が学校を休んでも施設では昼ごはんが用意されていない。決められた時間を過ぎてもスマホを使うだろうからと夜は回収するなど、憶測に基づいてルールが決められていて、信用されていないと感じる。職員が少なく余裕がないというのもあるんだと思う。
- ・寮の移動や職員の異動により人間関係を一から作らないといけないのが辛い。
- ・両親に事情があって入所している場合もあるのに、「施設は問題を起こした子、問題のある子が入っている」と言われた子がいる。そんな風に誤解されるのは辛い。

Q2.困っていること、悩んでいることに対し、政府や自治体にやってほしいことはありますか？

【教育環境の改善など】

- ・一時保護所から学校に通えるようにしてほしい（高校生のみ学校が電車等で通える場所にある場合は通学している）。
- ・一時保護所では授業の科目が算数、国語、英語に限られている）。社会や理科や保健の勉強時間を増やしてほしい。

【一時保護所や児童養護施設の環境の改善】

<一時保護所>

- ・リモートでつなぐなどして友達と話せるようにしてほしい。友達と話すと勇気をもらえる。
- ・一時保護所の職員を増やしてほしい。一緒に遊んだりしたい。
- ・好きな時に好きな場所に自由に外出ができるようにしてほしい。行先は自分たちで決めたい。
- ・放課後等デイサービスや部活など自分の居場所となっている場所に通えるようにしてほしい。
- ・一日だけ家に戻ったり、学校に通ったりして、環境に慣れるための体験ができるようにしてほしい。
- ・親に連絡する際、職員を通じてではなく直接電話で話せるようにしてほしい。
- ・壊れた所を修理したり、本棚を増やしたり、漫画やぬいぐるみなどをかうためのお金がほしい。

<児童養護施設>

- ・スマホは職員や友人との連絡手段として、とても重要。
- ・スマホの通信料を自分のバイト代から払わないといけませんが、将来使うお金（一人暮らしの費用、車の免許など）がなくなってしまうので、施設内のWi-Fiを自由に使えるようにして通信料を抑えるなど経済的な負担を小さくしてほしい。
- ・不登校になった際など、ただ「学校に行け」と言うだけでなくもっと寄り添ってほしい。
- ・偉い人のお話を聞くなどではなく、実際に役に立つような自立支援をしてほしい。
- ・仕事に追われてこどもとのコミュニケーションをしっかりと取ろうとしない職員が多い。施設経験者など気持ちの分かる人に職員になってほしい。

Q3.どういった仕組みがあったら意見を言いやすいと思いますか？

【信頼できる人から安心できる環境での意見聴取】

- ・意見箱のように匿名で職員の事を書いたりしたら書かれた職員も嫌な気持ちになると思うので、職員に直接言える関係を築くことが大事。そのためには、こどもの気持ちを理解できる人に職員になってほしい。
- ・秘密や約束を守ってくれる信頼できる人や自分が好きな職員であれば意見を言いやすい。
- ・見ず知らずの人には悩みや困っていることなど教えられない。境遇が近い人や信用できる人でないと話せない。
- ・かわいそうだねと同情する人よりも、アドバイスをくれて、一緒に解決してくれる人に相談したい。
- ・同年代の人だと自分の意見を言いやすい。特に女の子にとっては近く感じる女性の方が話しやすい。
- ・職員と一緒に買い物に行くなど出掛ける日をこまめに作ったりすれば、身近に感じて出かけている最中に意見を言いやすくなる。
- ・自分の部屋など自分が落ち着け、安心できる場所で意見を聞いてほしい。
- ・会議みたいな場所ではなく、周りで小さい子が遊んでいるような気軽に話せる場所の方が話しやすい。
- ・丁寧語は距離を感じるので気楽に話してもらえたら意見を言いやすい。

参加者からの感想

- ・色々話せてスッキリした。自分たちの意見を反映して、改善してもらえるとうれしい。

こども・若者からのヒアリング ④

(1回目のヒアリング概要)

別添

日時：11月3日(水)13:30～15:00、15:30～17:00、11月4日(木)15:00～16:30
対象：関東の児童相談所一時保護所の小学生、中学生(8名)
関東の児童養護施設の中学生、高校生(15名)

1. こどもの権利カードを選ぼう（児童相談所一時保護所の小学生、中学生）

○選んだカードとその理由

「ネットや本を自由にみたい」

- ・インターネットが使えない。動画投稿サイトやゲームができない。調べものがない。

「高校に進学したい」

- ・高校に進学できないと就職に不利になるから。

「もっと勉強したい」

- ・一時保護所で受けられる授業は限られている。

「学校に通いたい」

- ・友達に会いたい。

「好きな髪型や好きな服装で過ごしたい」

- ・好きな髪の色に染めたい。気分が上がる。

「たたかれたり痛い思いをしない」

- ・これはそのまま、当然でしょう。

「ひみつを守ってほしい」

- ・秘密を守ってくれない人がいる。

「児童福祉司や児童心理司ともっと会いたい」

- ・2週間以上会っていない。今（ケースワークの進捗が）どうなっているのか知りたい。

「ゆっくり休みたい」

- ・（家にいたときに）学校と部活が忙しくてゆっくりできる時間がない。

「他のこどもとくらべられない」

- ・これはそのまま。比べられるのはいや。

2. 現在の生活で困っていること、改善してほしいこと（児童養護施設の中学生、高校生）

- ・おこづかいの金額が少ない。
- ・スマートフォンの契約ができない。
- ・友達を自分の部屋に入れることができない。きょうだいですら入ることができない。なぜだめなのかわからない。同室の子がいるならわかるが、理由がない。
- ・寝る時間が午後11時なので、それ以降のテレビが見れない。
- ・外出は、〇〇駅までしかいけない。
- ・友達の家にお泊まりができるようにしたい。友達の家から一緒に学校に通いたい。
- ・職員からこどもの呼び方が、「～さん」に変わった。気持ちが悪いのでやめてほしい。
- ・門限は午後6時。友達と遊びに行く時間を伸ばして欲しい。
- ・夜、スマートフォンを職員に預けないといけない。回収されたくない。夜、絵を描いたり、音楽を聴いたりできない。
- ・少しの話し声も漏れるので、電話をしにくい。音が響きやすい。
- ・服代は、1年間で3万円では足りない。
- ・ジュースを自分で買わないといけない。普通の家では、親が買ったものを飲めるのに。
- ・（週700円分のおやつ）自分で食べるおやつを決めたい。自分で買いたい。
- ・インターネットは使える時間が決まっている。もう少し使いたい。
- ・おこづかいが少ないことや門限が早いこと、スマホがWi-Fiがないと使えないことなど友達に知られたくない。友達から気を遣われたくない。かわいそうと思われたくない。職員に言っても、「来年（高校生）になったら使えるじゃない」と言われる。
- ・ルールを勝手に決められる。
- ・職員が勤務時間だからという。ドライ。
- ・Wi-Fiが使える時間を伸ばしてほしい。友達と電話を夜するときに無料電話ができるアプリが使える。携帯電話代が安くなる。
- ・職員に「もっとシフトに入ったら」と言われる。今は週に5日で働いている。施設を出るとお金があるので、今のうちにお金を貯めないといけない。もっと働かないといけない。友達と遊びの時間が欲しい。
- ・職員によって言うことが違う。
- ・（一時保護所について）他の子と話すとき怒られる。男女で視線を合わせてることもダメ。
- ・児童相談所の一時保護所がひどい。完全な牢屋。
- ・前はよかったことが突然ダメになる。
- ・職員に気持ちが悪い。定時になった途端に帰ったり、夜遅い時や大雨の時に迎えにきてくれなかったりする。
- ・「～さん」でなく、「～ちゃん」がよい。「～さん」は嫌。
- ・バイトで稼いだお金は自分で使いたい。
- ・文房具を買って欲しい。お小遣いで買わないといけない。
- ・ある職員に注意されたことについて、他の職員に同じことを何度も言われる。翌日や翌々日にも言われることがある。
- ・児童相談所の児童福祉司が施設に来る日は、突然伝えられる。急に「バイトを休め」と言われるが、他の人に迷惑がかかるから、早めに言って欲しい。

こども・若者からのヒアリング ⑤

ヒアリング対象者：社会的養護（一時保護、児童養護施設、里親、ファミリーホーム）の経験がある大学生3名
ヒアリング実施日：2021年10月13日、20日

Q1. 困っていること、悩んでいることはありますか？

【経済的な不安】

- ・施設を出てから大学入学までの期間、奨学金もすぐには入らない中、引っ越し代や入学金など、今払わなければならないお金が足りずに困った。
- ・留年や休学をしてしまうと奨学金が打ち切りになってしまうことが不安。
- ・一部の奨学金は卒業後数年働いたら返還額が減少するが、働けなかったら全額返還が必要。社会的養護経験者はトラウマ抱えている人が多く、生きていくこと自体に不安を抱える中、奨学金を返還できるか不安。
- ・コロナ禍でバイトができなかったことは痛手。

【頼れる人や保証人がいない】

- ・家を借りる際の保証人や大学の奨学金を借りる際の保証人となってくれる人を探すのが大変。
- ・アフターケアの担当者はほとんど会ったこともなく、連絡しても返信ない。
- ・コロナの影響で大学に行けなくなったことにより孤立している。クラスメイトはいても心を許せる友達がいらない。どの学生もさみしい思いをしていると思うが、自分には「帰る場所」というのがない。

【生活を築くための基本的な知識・情報の不足】

- ・一人暮らしを始める際、親に自分の住所がわからないようにする手続きや健康保険の手続き、ガス・電気・水道の契約など、生活の基盤を築くための手続きをどうすれば良いか分からずに困った。

Q2.困っていること、悩んでいることに対し、政府や自治体にやってほしいことはありますか？

【積極的な情報発信、情報共有の仕組み】

- ・社会的養護出身者が使える制度は色々あるのに、使える制度を知らない、知らされていない。措置延長の仕組みなども含め、そもそも施設の職員があまり制度のことを知らないので、制度のことを知ってほしい。担当職員の知識量によって、制度を知ったり使うことができるか左右されてしまっている。
- ・他の社会的養護経験者と、困っていることなどについて情報交換ができる場があるといい。

【リービングケア・アフターケアの充実】

- ・施設出所後、一人暮らしをするにあたって何をすればよいのか、生活の基盤を築くために必要な知識を教えてほしい。出所前に施設でのリービングケアを充実したり、社会的擁護を経験した先輩に基礎的なことを教えてもらう仕組みがあったら良いのでは。
- ・リービングケアは、施設以外の外部の大人も交えて一緒に準備してほしい。自立後に相談できる相手をたくさん作っておくことが重要。
- ・アフターケアや児童相談所の人との関係が、「行政とこども」ではなく、身近で気まずくない関係性を持てるといい。

【コミュニティの創出】

- ・学校以外に、いろんな世代と関われ、学生のうちから色々な価値観に触れられる場、コミュニティがあるといいと思う。また、そうした場合は、意識高い系の人だけでなく、色々な人がハードル低く参加できるような場であることが理想。

Q3.どういった仕組みがあったら政府や自治体に意見を言いやすいと思いますか？

【幅広い層からの意見聴取】

- ・ある程度話せる子がいないと会議が成り立たないので、推薦である程度話せる子をいれるとともに、公募もあった方がいい。なかなか話せないけど、想いを持っている子も入れてほしい。
- ・都会の施設と田舎の施設の子で経験していることが全然違う。幅広く声を聴いてほしい。

【情報・プロセスの見える化】

- ・こどもの声を聴いた後、実際にその声が反映されるプロセスや結果を「見える化」してほしい。そうでないと大人に意見を言っても意味がないと思ってしまう。
- ・政治的な大きい事ではなくても、声を出すことにより、小さい事が叶っていくということを知らしめていくことが大事。
- ・どこに何を話したらいいのか明確に教えてほしい。

【行政へのアクセスのハードルを下げる】

- ・行政は「ただただ固い」、「区役所＝面倒くさい」というイメージがある。いかにハードルを低くするかが大事。
- ・SNSで「変えてほしいこと」の選択肢を作って、同意する項目に投票してもらうなどすると目に見えて分かりやすい。
- ・農作物の販売でやっているように、行政の担当者の顔が見えると「自分たちと同じ人間がやっているんだ」と人間味を感じることができ、関わりやすくなる。

こども・若者の声に関する参考資料

- ① コロナ×こどもアンケート調査報告一覧（国立成育医療研究センター コロナ×こども本部）
https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/report/#03

- ② 令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）報告書
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210430_1.pdf
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210430_2.pdf
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210430_3.pdf
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210430_4.pdf
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210430_5.pdf